Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや！広島城

No.47

広島城と城下町に潜む痕跡をめぐる 広島城紙上フィールドワーク　ＰＡＲＴ４

広島城に関連する痕跡については、平成25年度の「しろうや！広島城」No.36・38・39で紹介してきました。今回はその第4弾となりますが、趣向が少し異なります。

これまでの痕跡は、石垣の跡や建物の跡、石碑、モニュメントなど一目見てそれとわかる「痕跡」を紹介してきました。今回は、一般にはそれとはわからないものの、掘り下げていくと実は城や城下町に関連する痕跡、というものを紹介していきます。街歩きしながら、思いもよらないところに潜む痕跡を辿り、広島の街が古くからの広島城と城下町にルーツがあることを「再発見」してもらいたいと思います。

その１　京口門公園は外堀の跡である！

広島城の東側には、かつて外堀の出口に京口門（右絵図の中央部の門）があり、現在でも公園やバス停の名称として使用されています。その公園部分が、実はもともと外堀があったところになります。その証拠に、公園の奥行が記録に残る外堀の幅10間（広島藩の換算では約19ｍ）にすっぽりと入ります。

広島城の外堀は明治時代末に埋め立てられるのですが、一般に道路になったというイメージが強いと思います。確かに現在の相生通りとなっている南側外堀は、埋め立てられた跡が住宅地と路面電車が通る道路となったことは良く知られています。しかし、京口門のあった東側外堀は事情が異なります。旧白島線はもともと堀の横にあった道を利用し（右絵図の堀横の道や右の絵葉書に映された道・現在のバス通り）、元の堀にあたる西側の土地は埋め立てられた後、宅地として使用されました。戦後になっても、その西側にあった軍事施設は官公庁の施設に、元の堀の宅地は引き続きビルが立ち並びますが、京口門公園の場所だけは都市公園として整備されたのです。人々の遠い記憶から忘れられていたこの事実は、一部の研究者にしか推測されていませんでしたが、平成17年（2005）に京口門公園の北側の延長線上にあたる「法務総合庁舎」の発掘調査において、外堀の石垣列が確認されたことから実証されました。なお、この堀の幅は、京口門公園の南北に続くビル群にも見られますので、現在の地図上で確認してみてください。

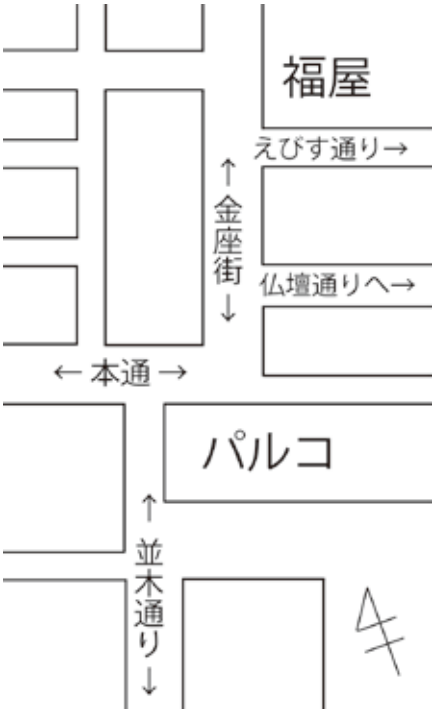
「安芸国広島城図」より

ちなみに、実際の京口門跡は公園よりもう少し南側にあったと考えられます。

東側外堀と横の道路の写る絵葉書

現在の京口門公園の様子

その２　広島築城期にルーツ？東西の道のズレ

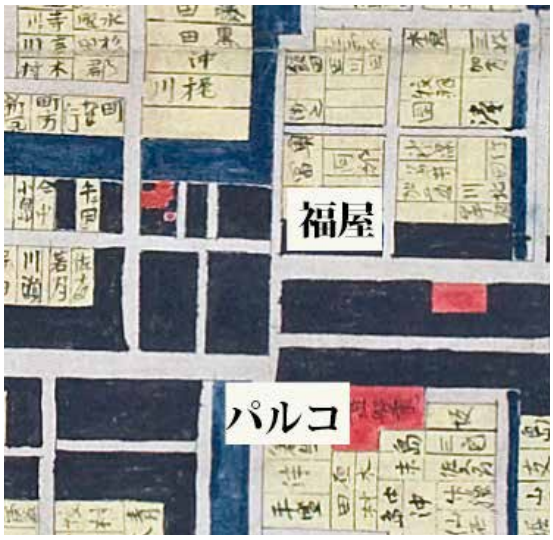


パルコ手前の本通（東詰）、右へ行くと並木通り

パルコ本館から金座街（北方面）に向かっての様子

みなさんも、本通や八丁堀周辺を歩かれることも多いと思います。さて、本通電停からアーケード街（本通）を東側に向かって歩いて行き、パルコ本館前まで来ると右手（南側）に並木通りが、そして左手には金座街へ続く道があり、本通は終わります（写真右）。パルコ本館の前にあたるこの付近は上の地図にある通り道が不自然にずれている箇所で、その他にも不思議な道が錯綜しています。

不思議な道についての一つ目の疑問は、この場所でアーケード街が北向きに曲がり（金座街）、ほどなくして東にもアーケード街が二つ続くことです。手前の道（南側・正式にはこの道も金座街）は東に行くと「仏壇通り」に、奥側（北側）の道は「えびす通り」になります。なぜこのようになっているのでしょうか。



「広島城下町絵図」（幕末）より

二つ目の疑問としては、南北の道である金座街と、パルコ本館から南側へと続く並木通りとは一直線上に位置しないのです。こちらも何やら不思議です。

そのルーツを探るために、幕末の「広島城下町絵図」を見てみましょう。分りやすくするために福屋八丁堀本店とパルコ本館を入れているので分ると思いますが、現在と同じように、本通と金座街・えびす通りにあたる道などが位置していることが分ります。実は築城当初の城下町絵図にも、ほぼ同じような道が描かれており、築城当初からこのようになっていたことが想定されます。一つ目の疑問の答えは、どうやら昔からこのようになっていたと言ってよいようです。ちなみにこれらの道は、城下を東西に貫く西国街道でもありました。

それでは二つ目の疑問はどうでしょう。左下の絵図をじっくり見てみましょう。絵図のパルコ本館の西側から南に延びる薄く塗られた部分があります。これはかつてあった平田屋川と呼ばれる運河なのです。この部分は戦後昭和20年代後半（1950年代前半）まで一部残っていましたが、埋めたてられて現在の並木通りとなっているのです。こうした一見不思議な道のように、城下町にルーツを持つものが他にもたくさんあるのです。

「広島城下町絵図」（正徳年間頃）より

ところで、一つ目と二つ目の疑問を踏まえ、この城下町の町割を、平田屋川・その東側の道（現在の金座街）を基準として少し凝視してみましょう。すると、その東西において、道が貫通していないことが分ります。例えば、本通り（パルコ前）は東側には貫通していません（現在は小道があります）。また、えびす通りは西側へは貫通しないため、現在でも三差路になっています。

先程は築城当初からずれていたというだけで片付けましたが、江戸時代中頃（正徳年間頃）の「広島城下町絵図」を全体的に見て、もう少し考えてみようと思います。

すると、広島城築城とともにできた広島の城下町は、東西・南北に碁盤の目になっているように思われがちですが、平田屋川を境に東西で道が一直線でない部分が見られる、異なる町割であるということが分ります。これは、現在の紙屋町交差点以南の鯉城通り（電車通り）にあたる旧西堂川の東西においても、その特徴を見出すことができます。

西堂川・平田屋川は、広島城と城下町を造ったときに海上から築城などに必要な物資を運ぶために掘削された運河なのですが、それに伴う城下町を造っていく過程で、西堂川の西側、西堂川と平田屋川の間、平田屋川の東側とそれぞれの別々に工事を行い、その結果として、東西の道路の一部に連続性が見られなくなったのではないかと考えられます。現在では、もともと道路が無かったところに道路を造るなどして真っすぐになっているところもありますが、それでもいくつかの箇所にその痕跡を見ることができます。現在の広島の道の微妙なズレは、広島城築城にまで遡るルーツがあるのです。

その３　おまけ　消えた町名を探してみよう

城下町を象徴するものとして、江戸時代の職人の名前などを冠した町名は、全国各地の旧城下町の都市にあります。広島では交差点名として知られている「紙屋町」は、その代表格でしょう。ただ、残念なことにこうした情緒ある城下町の町名の多くは、昭和40年（1965）の町名変更によってなくなってしまいました。しかし、なくなった町名も、石碑、店名・ビルの名称など、街中の一部で残っているところがあります。また、面白いことに電柱の銘板に旧町名が残っているのです。

旧町名では、爆心地近くの町名として著名な「猿楽（さるがく）町」の他、「西魚屋（にしうおや）町」「研屋（とぎや）町」「石見屋（いわみや）町」「台屋（だいや・だいおく）町」などが電柱の銘板に残されています。決して潜んでいるわけではありませんが、通常の目線よりも上に位置し、普段目が行き届かない場所で存在感を示しています。注意して探してみてください。

まとめ

広島の城や街は、広島城築城以来の都市づくりを基盤として、少しずつ形成されていったものです。広島は原爆で街が壊滅したイメージが強すぎるため、このような痕跡が無いように誤解されがちですが、戦後大がかりな都市改造がなかったこともあり、意外と昔の町の区画・道路、建物の跡、堤防の跡、段差など様々な痕跡が残されています。

今回紹介したものは、ほんの一例です。町を歴史的に見てみると、多くの発見があると思います。歴史を見つめながら、町をじっくり歩いてみると面白い往時の痕跡にきっと出会えます。

（玉置和弘）

※使用した資料は、いずれも広島城蔵です。

しろうや！広島城

編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電　話：082－221－7512
ＦＡＸ：082－221－7519

平成28年３月23日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00
（12月～２月は９：00～17：00）
入館の受付は閉館の30分前まで
観 覧 料：大人370円（280円）　中学生以下無料
高校生相当・シニア（65歳以上）180円（100円）
（　）内は30名以上の団体料金
休 館 日：12月29日～31日（臨時休館あり）
ホームページ　http://www.rijo-castle.jp

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページ（http://www.rijo-castle.jp）からダウンロードできます